

連載

98 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (66歳・内科)

低成長時代にうごめく “ゆとり世代”のアウトローこそ 未来のオピニオンリーダーと成り得る。

今年の4月もまた、診療報酬改定がありました。したがって、患者さんに対する医療介護サービスの仕方が突然変わることになります。ですが、あくまで私たちは、患者さんに寄り添い、そのニーズとデマンド(需要)を満たすことを目指しています。

ある日、重度便秘症で朝から食事が取れない患者さんがいると、伊予市の施設から往診依頼がありました。その診察中に今度は、東温の施設から発熱・

嘔吐の患者さんの往診依頼があったのです。すぐに高速自動車道に乗り、30分ほどで東温の施設に到着しましたが、その道中も、他院の在宅訪問診療車が軽く追突されたようで、その事故処理についての相談があったのです。東温の施設の患者さんは、腸閉塞の疑いがあったため、第二次救急病院へと緊急搬送しました。そして、午後3時ごろ、近くのコンビニの駐車場でひと休みとなりました。しかし、その間も患者さんの誤薬への対応をし、当院の郵便受けの修理相談や当院保養所の改修工事の指示を行うなど、忙しく日勤業務をこなし終えたのは、午後6時を少しまわったころでした。

在宅医療は、介護医療の専門知識以外に、患者さんの住宅改修(バリアフリーなど)や人間関係などの生活療養環境全般にも対応が求められます。それらをテキパキとこなすには、あらゆるものに興味

を持ち、学問の知識だけではなく学習・経験の知恵を持つ人材でなければなりません。そういった人材は、ややもすると“ゆとり世代”の中のアウトローですが、知恵というたくさんの引き出しを持っています。そして何人か集るとダイバーシティスクラムとなり、強く速く確実に、高度な難題を解決できるのです。

当院ではすでに、医療・看護・介護・そのほか一般をコーディネートする30代のリーダーを中心に20代・40代のスタッフ16名がひとかたまりとなって連携しパワーとなっています。一人一人のリーダーは、過去の価値観では確実にアウトロー“落ちこぼれ”と思えます。ですが、現在・未来に向かっては、とてもたのもしく信頼といったものが見えてくるのです。

今回のような、忙しくも重々しい日々を、なんとかスムーズに過ごせたのも彼らの成長の証なのでしょう。

団塊の世代の私は、高度成長期やバブル時代を経験しています。どうやら、その時代の常識といったものが体に染み付いているようで、現在の大不況低成長時代は平坦な地盤の縮小なのだと、軽く思いがちです。頭の中では、温暖化による北極の氷のようにもろいものだとわかっているのですが…。

バブル時代後の世代である30代から20代の“ゆとり世代”の中にも、強くたくましく生きてきた者たちかいます。彼らはその世代のアウトローであり、知恵という引き出しをたくさん持っています。そういった者たちが、現在・未来の困難で不確実な時代を駆け抜けることのできるオピニオンリーダーなのです。しかし、お互いとうまく連携することが必須で、最も大切なことです。そのためには、組織のトップが、時代の風を感じながらもしっかりと志を持ち、また情熱を持って行動しなければなりません。そうすることによって、アウトロー軍団はまともなり、真のダイバーシティスクラムの完成となるのです。そしてそれは、あくまで、患者さんのために…。



外来診療(かかりつけ医) 要予約 総合内科・漢方診療科

お医者さんが 24時間・365日態勢で対応
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い
在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名
(常勤8名、非常勤14名)
内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 2名
(ペインクリニック科)
末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所 (医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/